

リスクコミュニケーション説明時の留意点

地域の皆さんに、より理解してもらうために、このようなことを説明に加えましょう

水

水はどんな工程で使用するのか。

冷却に使うのか、洗浄に使うのかなど、水の使用目的と水を使う工程などについて説明しましょう。

洗浄などに水を使用する場合、排水には何が含まれているか。

排水中に例えば重金属や化学物質が含まれていても、それは目には見えません。何が含まれていて、どのように処理して排出しているのか説明しましょう。

排水基準、自主基準と実際の測定結果との比較。

基準は守られていても、それで充分とは限りません。自主基準値を設けたり、さらに排出を減らせるような対策、または計画について説明しましょう。

また、日頃から排水の水質チェック以外に、排水路などの藻や水の色に異変がないか、異臭がないかなどを人の五感による確認をすればその様子も説明しましょう。

排水は下水道に流しているか、公共用水域に流しているか。

公共用水域に流している場合は、どの水路、河川に流しているか説明しましょう。また、用排水路である場合は用水としての使用の有無を把握をしておきましょう。用水量、排水量について。

特に地下水を利用している場合は揚水量も説明しましょう。また、以前と比べて用水・排水量は増えているのか減っているのか、その変化の理由についても説明しましょう。節水への取組について。

水の再利用や、使用量の削減のための取組と、取組の実績について、今後の計画、方針とあわせて説明しましょう。

大気

廃棄物の焼却をしている場合は、何を燃やしているか。

分別の徹底など、ダイオキシン類発生抑制のための対策を説明しましょう。ダイオキシン類対策として焼却炉を廃止した実績があればそれもあわせて紹介しましょう。排出ガス、ダイオキシン類などの排出基準、自主基準と実際の測定結果の比較。

基準は守られていても、それで充分とは限りません。自主基準値を設けたり、さらに排出を減らすための対策、または計画について説明しましょう。

また、日頃から排出ガスのチェック以外に、目で煙の色などに異変がないか確認していればその様子も説明しましょう。

騒音・振動

騒音・振動発生施設の設置状況、対策など。

騒音・振動発生施設は事業場内のどこに設置されているか（住宅地に近い位置に設置？）、建物内に設置したり振動防止マットを敷いたり、防音カーテンで囲むなどの対策について説明しましょう。

騒音・振動の基準値と実際の測定結果の比較。

基準は守られていても、それで充分とは限りません。特に音は気になるものです。自主基準値を設けたり、夜間の運転は控えるなどの対策、計画について説明しましょう。

悪臭

悪臭の発生する施設はどの施設か。また、何がどうしてにおうのか。

悪臭といっても、使用している化学物質そのものにおいであったり、活性汚泥処理施設のように、処理施設からのおいであったりと発生原因はさまざまですが、「何かわからないにおい」というのが一番不安に感じます。においの発生原因について説明するとともに、脱臭装置を付けるなどの対策や、においが外へ出ないようにするための対策を今後の計画も含めて説明しましょう。

化学物質

どのような化学物質をどんな用途で使用しているか。

「この化学物質を使用している」ではわかりません。どんな用途にどんな工程で使用するのか説明しましょう。

使用化学物質の環境中への排出の有無など。

使用する化学物質が完全に回収されるものなのか、大気、水などへ排出されるものなのか説明しましょう。

さらに、排出がある場合はどのような工程で排出されるのか説明しましょう。

また、化学物質の量的な動きがわかるように、PRTRデータなどを利用して、実際の使用量、排出量、再利用している量を説明しましょう。

環境中への排出がある場合、どこへ排出されるのか。

大気中へ排出されるのか排水中に排出されるのかを説明しましょう。

また、排出量の実績や、回収装置を取り付けるなど排出抑制のための対策についても今後の計画を含めて説明しましょう。

使用化学物質の有害性について。

特に排出量の多いものや、有害性の高いものについて、その人体影響等についても説明しましょう。

また、代替できるものは有害性の低いものに代替するなどの対策について、今後の計画を含めて説明しましょう。

廃棄物

廃棄物としては何が、どれだけ出て、どのように処分しているか。

分別の徹底や、再利用など廃棄物の減量のための取組についても実際の排出量とともに説明しましょう

非常時の対策

施設の点検作業の実施頻度等について。

施設の正常運転確認のための点検作業は、誰がどれくらいの頻度で、どのような点をチェックするのか説明しましょう

施設の異常を感知する設備の有無等について。

施設の異常を感知する設備の設置状況と、その設備自体の点検の有無についても説明しましょう

異常が生じた場合の対応について。

すぐに原因究明にとりかかれるのか。また、工場外へ有害な物質が出るのを防ぐ対策などについて説明しましょう

災害時にはどのような危険性があるか。

例えば爆発、火災など、どのような危険性があるか説明しましょう

非常時の連絡体制について。

消防や市町村、避難を要する場合などの周辺住民への連絡体制について、連絡手段もあわせて説明しましょう

その他

苦情などの相談窓口について。

不安に感じた場合など、どこに相談したらいいか説明しましょう

寄せられた苦情について。

これまでに寄せられた苦情にはどのようなものがあり、どのように対応したか。また、苦情などがあつた場合には、社内ではどのように対応しているのか説明しましょう

企業として抱えている問題点。

「基準に適合している」など「よい結果」だけではなく、企業として抱えている問題点・課題などについて、方針もあわせて説明しましょう

過去に起こした事故について。

過去に何らかの事故を起こしたことが有る場合、事故の内容と対処方法、その後の対策などについて説明しましょう